

丸亀市 こどもと子育て家庭の生活実態調査

支援者アンケート結果とりまとめ

問3 貴機関（団体）の事業（問1の②）の中で、特にこどもやその保護者から評価の高い事業を教えてください。

1. 多様な体験教室と発達支援

ダンス、アート、英会話、体操など多様な体験教室を提供しています。これにより、子どもたちが興味を持つ分野での体験を通じて、楽しみながら成長できる環境を整えています。また、個別支援・集団支援を行い、一人ひとりの児童に合わせた発達支援を実施しています。幼稚園と療育施設が同じ敷地内にあるため、日常生活と発達支援が密接に連携し、効果的な支援が受けられることが特徴です。発語や運動遊びなど、就学に向けた個別療育活動を通じて、子どもたちの健全な成長をサポートします。

2. 子どもと家族に寄り添う居場所作り

「子ども第三の居場所」として、子どもやその家族に寄り添い、支えていく場所を提供しています。親子ふれあい遊びや親子での活動を通じて、親子の絆を深める機会を設けています。また、たんぽぽサロンでは、日々の親子相談や援助を行い、親同士の交流の場も提供しています。このように、家庭と地域、専門機関が連携し、子どもとその家族が安心して過ごせる居場所作りを目指しています。

3. 地域子育て支援と連携

地域子育て支援拠点事業やコーディネート事業を展開し、地域全体で子育てを支援する体制を整えています。巡回カウンセリングや出張相談、研修を実施することで、地域のニーズに応じたサポートを提供しています。また、地域との連携を強化することで、子どもたちが安心して育つ環境を整えています。地域の子育て支援拠点として、親子に寄り添いながら、共に成長する場を提供しています。

4. 季節ごとのイベントと特別活動

七夕まつり、クリスマス会、お正月遊びなど、季節ごとのイベントを通じて、子どもたちに豊かな経験を提供しています。また、五感を使った感覚あそびや自由度の高いフリーの日など、子どもたちがのびのびと遊べる環境を整えています。さらに、フードドライブや子ども食堂、フリースクールなどの活動を通じて、地域の子どもたちとその家族を支援しています。これらの活動を通じて、子どもたちが多様な経験を積みながら成長できる場を提供しています。

5. 放課後と長期休業中の充実したプログラム

放課後子供教室や長期休業日の保育を実施しています。放課後には、外遊びや室内遊び、学習支援、工作活動など、多様なプログラムを提供しています。長期休業中も、体育館でのドッジボールや外遊び、学習など、子どもたちが楽しみながら過ごせる環境を整えています。また、保護者が就労中でも安心して預けられるよう、注文弁当の提供なども行っています。これにより、保護者の負担を軽減し、子どもたちが安全で充実した時間を過ごせるようサポートしています。

問4 日頃接している、貴機関（団体）を利用されるこどもはどのような面で困難を抱えている（または可能性がある）と思いますか。分かる範囲でお聞かせください。

1. コミュニケーションと対人関係について

コミュニケーションと対人関係の困難として、コミュニケーションがうまく取れない、集団での関わり方が分からない、言葉のやりとりがしづらい、他者とのコミュニケーションが苦手といった問題があります。また、学校や園での集団活動が苦手、友達同士で仲良くできない、先生との関係やいじめ、親子関係の悩みも見られます。

2. 生活スキルと習慣について

基本的な生活スキルと習慣の不足に関しては、食事や排泄などの基本的な生活スキルの獲得が課題となっており、基本的な生活習慣や生活動作が苦手、生活リズムが整っていないことが挙げられます。さらに、食生活の偏りや睡眠不足、孤食などの問題も含まれます。

3. 心理的な習慣について

心理的・精神的な問題も多く、学校への恐怖心や精神疾患（うつ等）、摂食障害、精神不安、心や体の健康状態が問題となっています。これに加えて、学業成果への過度なプレッシャーや過干渉、無関心、ストレスやトラウマも大きな課題です。

4. 発達と健康について

発達と健康に関する問題では、発達障がいや言葉の遅れ、不器用、医療ケア児、糖尿病などの健康問題が見られます。また、筋力の不足や体幹が弱い、発育面の問題も含まれています。

5. 家庭環境と育児について

家庭環境と育児の問題として、親の経済的困難や家庭の教育力の低下、両親からの愛情不足、親子関係の不安定さが挙げられます。母親の仕事復帰による祖父母の負担や家庭での生活時間の少なさ、保護者とのコミュニケーション不足も問題となっています。

問5 日頃接している、貴機関（団体）を利用されるこどもの保護者はどのような面で困難を抱えている（または可能性がある）と思いますか。分かる範囲でお聞かせください。

1. コミュニケーションと社会参加について

コミュニケーションと社会参加の困難として、発語やコミュニケーションが少ないため、子供の気持ちを理解するのが難しく、周囲の視線が気になり、参観や行事に積極的に参加できないことや、気軽に相談できるネットワークが少なく社会参加が難しいという問題があります。

2. 育児における不安とストレスについて

家庭内および育児における不安とストレスに関しては、環境の変化やトラブルによる園や学校への行き渋り、就学に向けての不安、生活習慣の乱れやネグレクト、子供の接し方や就学についての不安、さらには親自身のメンタルヘルスやパートナーとの関係、家庭内の問題が挙げられます。

3. 発達障害について

発達障害や病気に対する不安については、発達障害への理解が広まりつつも、行事や就学時に他の子との違いを感じ、不安を抱える保護者が多いことや、子供の障害や病気についての不安、医療ケアや市との対応に悩むケースがあります。

4. 経済的・時間的な余裕の不足について

経済的・時間的な余裕の不足に関しては、共働きや仕事の忙しさから子供に十分な時間やケアを提供できず、離婚などによる経済的困難やひとり親の精神的ストレスが影響しています。

5. 学習と就労について

学習・就労・生活習慣の問題としては、学習の遅れや不登校、就労の継続が難しいこと、経済面での問題や子供の生活習慣や行動に関する問題が挙げられます。

問6 貴機関(団体)を利用されるこどもに、不足している支援策(制度)や課題と思われることがありましたらお聞かせください。

1. 多様な支援ニーズに対応することが必要

子どもたちが直面している課題は非常に多岐にわたり、発達障がいのある子供たちへの個別の支援から、経済的困窮による支援、不登校や学習障害を抱える子どもたちへの特別な介入まで含まれます。これらの支援は、教育的なものだけでなく、医療や心理社会的な側面からのアプローチも必要とされています。そのため、教育者、医療提供者、社会サービス担当者間での連携が不可欠です。

2. インクルーシブな教育とケアの確保が必要

現在の教育環境では、特別なニーズを持つ子供たちに対するサポートが不十分であることが課題として指摘されています。これに対処するためには、ソーシャルスキルの向上を目指すトレーニングや、個々のニーズに合わせた加配教員の配置、適切にデザインされた遊び場など、物理的および教育的な環境の改善が求められます。

3. 地域資源と情報の提供の改善が必要

地域におけるフリースクールやその他の教育施設の情報が不足していることや、利用可能な施設へのアクセスが困難であることが問題となっています。これらの情報の提供を改善し、より多くの家庭が支援を受けられるようにする必要があります。また、地域社会におけるフードバンクや経済支援のプログラムを充実させ、困窮する家庭への直接的な援助を強化することが重要です。

4. 体系的な支援体制の構築が必要

現在の支援体制では、必ずしもすべての子どもや家庭のニーズに応じた支援が提供されているわけではありません。児童やその家族に対してより個別化され、持続的な支援を提供する体系的な枠組みの構築が求められています。これには、学校、行政、保護者が緊密に連携し、情報の共有とリソースの最適化を図ることが含まれます。

5. 教育と保護の質の向上が必要

保護者や教育関係者からは、子供たちがもっと自由に表現できるような環境の提供や、子供一人一人に寄り添うことができるような1対1のケアを提供する加配保育士の育成など、教育とケアの質を向上させる要求が高まっています。これにより、子供たちがそれぞれのペースで成長できるような支援を実現することが目指されています。

問7 貴機関(団体)を利用されるこどもの保護者に、不足している支援策(制度)や課題と思われることがありましたら、お聞かせください。

1. 相談のアクセシビリティと継続性の不足

社会の中で保護者が直面する様々な課題に対して、特に就学後の保護者の相談窓口が限られているという問題が浮かび上がっています。保護者がいつでも気軽にアクセスできる相談の場の設置が不足しており、平日の夜間や週末にも利用できるサポートサービスの要望が高まっています。これにより、新しい課題の発見や情報共有が促進され、保護者の不安を和らげることが期待されます。

2. 専門的な支援と教育の不足

発達に偏りがある子供や育てにくい子どもの親への支援が十分ではないという声が多く挙げられています。これに対応するために、育児の方法や家庭教育に関する専門的な知識を提供する勉強会やワークショップの充実が求められています。また、保護者が子育ての基本や大事なポイントを平等に学べる機会の提供も重要とされており、これが実現すれば親が少しでも楽に子育てができるようになることが期待されます。

3. 経済的および物質的支援の要求

経済的な支援に関する要望は多岐にわたります。特に多胎児世帯やフリースクールの利用者への支援、急な残業が原因で生じる育児の困難を補助する制度など、具体的な支援が必要とされています。また、緊急時に必要な物資を提供できるシステムの構築も求められており、これによって困っている家庭が迅速に援助を受けられるようになることが期待されます。

4. コミュニティとの連携不足

保護者同士の交流や情報共有の場が不足しているという問題が指摘されています。これを解決するためには、集会や講演会を通じて保護者間のネットワークを強化し、互いに支えあえるコミュニティの構築が重要です。また、育児に関する悩みや情報を共有するための場の設置も必要であり、これが実現することで保護者が孤立せず、助け合いながら子育てができる環境が整うことが期待されます。

5. 柔軟な対応とインフラの不足

離婚などの緊急事態に迅速に対応できる窓口の設置が求められています。また、保護者が利用する際の手続きの柔軟性、特に通信手段を多様化することでアクセスの利便性を高める必要があります。これらの改善が行われることにより、保護者が直面する様々な問題に対して迅速かつ効果的に対応できる体制が整えられることが期待されます。

問8 貴機関（団体）を利用されることもへの支援を、他機関と連携して行っていますか。

項目	回答数（割合）
1 している	27（96.4%）
2 していない	1（3.6%）
3 その他	0（0.0%）

問9 貴機関（団体）を利用されることもと保護者への継続的な支援に向けて、他機関との連携や協働するために必要なことや課題と思われることがありましたら、お聞かせください。

1. 多機関連携の重要性

園、学校、福祉、医療機関など多岐にわたる関係機関が協力し合うことで、子どもたちや家族に対してより包括的で効果的な支援を提供することができます。特に、定期的な情報共有の機会を増やすことで、新たな課題の発見や早期介入が可能になり、支援の質を向上させることが期待されます。

2. 情報共有の課題と必要性

個人情報保護法の制約が情報共有に大きな壁となっている一方で、秘匿化された情報の共有や、定期的な連絡会を設けることで、これを克服する試みが求められています。情報共有は各機関間での誤解を避け、連携をスムーズにするために不可欠であると同時に、支援の連続性と効果を保証するための重要な要素です。

3. 地域社会との協働

地域の機関や民間の施設と連携することで、より広範な支援ネットワークを構築し、多様なニーズに対応する体制を整えることが可能です。地域全体で情報を共有し、支援が必要な子どもや家族が迅速に適切なサービスを受けられるようにするために、市町村や民間企業からの積極的な情報提供と協力が求められています。

4. 専門性の理解と担当者の明確化

各機関が持つ専門性を理解し、それぞれの役割を明確にすることで、より効果的に連携を進めることができます。また、専門家の派遣や職員の資質向上を支援する仕組みを整えることが、高品質なサービスの提供を実現するために重要です。

5. 早期発見と支援の早期実施

子どもや家族の問題を早期に発見し、迅速に対応する体制を整えることが重要です。これには、地域内で容易にアクセスできる相談窓口の設置や、情報の共有による協力体制の強化が不可欠です。早期の介入により、問題の悪化を防ぎ、子どもたちの健やかな成長を支援することができます。

問 10 ご意見などありましたら、お聞かせください。

- 各関係機関が集まって研修会や講演会などがあれば、自業種外の知識の勉強もでき、連携の強化につながるのではないかと考えます。
- 幼保運営課、障害福祉課をはじめ、今連携している相談支援事業所や医療機関の皆様には大変よくしていただいておりますので、特に課題は感じません。
- 園や学校が、福祉サービスに対して消極的な雰囲気を感じています。もっと園・学校と事業所が連携して、成長につながる支援ができれば理想だと感じます。
- 日頃より、当事業所、母体の幼稚園対してもいろいろな支援をしていただき、ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- アンケート回答が遅くなり申し訳ありません。児童発達支援センターとして、一人一人の児童と向き合いながら、保護者の方の思いに寄り添い、また、地域の中での役割をしっかりと考え、少しでも貢献できる事業所でありたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。
- お忙しい中、いつも色々ご対応していただきありがとうございます。難しいかもしれませんが、巡回相談でフォローしきれない子供もいるため、5歳児健診があればいいと思います。小学生、中学生の学習障害（LD）の子供たちに対するフォロー機関が、欲しいです。
- 保護者が夜遅く（夜中）飲食店に連れ出すことが多い。子ども（未成年）は禁止してほしい。
- 児相等の機関の担当者が変わるたび、引継ぎが十分ではない為、連絡が途切れたりする
- 民間・行政・各種執行権限を持つ機関などそれぞれの役割を明確にした上で、協定書などで守られた個人情報に適宜共有することが必須だと思います。軽度の支援児童から警察・医療関係者を巻き込むほどの緊急案件まで全てを網羅することで、見過ごされてしまう児童や置き去りにされる家庭が多く年月が経つことで重篤化するケースが多いです。専門家の偏りや、適切なアドバイスの不足、保護者への勉強会の機会などが極端に少なく感じます。アダージョさんのような相談窓口に行ける親はまだいいものの、行く時間がない、そもそも行く必要性を感じていない家庭に情報提供されていない上、窓口に行ってもその場限りだったというケースも多く聞きます。
- 子育てひろば・支援センターに来ている親子がそれぞれのひろばに何を期待して求めて来ているのか知りたい。
- 登録していてもなかなか来れない人がいる。その対応について模索している。
- 子育てしている家庭同士がお母さん方も他機関の催し、行事にネットワークを持っていて保護者が気軽に利用でき場でありたい。
- 保護者がイベント大好きなことが今回の生活実態調査の取り組みでよくわかった。このことも念頭に置き今後の活動に反映させたい。
- 普段着で気楽に集える「実家に帰った時のようなホットできる子育ての居場所」を目指している。
- アドバイスというより話を聞く耳を持ち一緒に考えるスタッフでありたい。
- 他の機関や施設との連携を深めて行きたいが難しさを感じている。
- 在宅子育て家庭の居場所作りの取り組みは急速に増えてきた。障がい児を持つ子育て親子の就学後の居場所はどうか就学期を迎える親の気苦労は計り知れない。就学後も安心して子育てに向き合える居場所作りの必要性を感じている。

6年度4月からたんぽぽの閉室後の部屋を15:00~17:00 迄の木・金・土曜日の2時間を重ね使いとして「配慮の必要な子育て家庭への支援」を実施している。部屋とか職員とか基本条件が整え毎日実施できるようになりたいと考えている。

- 小・中・高校生の不登校の増加傾向がみられるが様々な形であたたかい支援の輪の広がりを望んでいる。
- 丸亀市のホームページに記載されている、「第3子以降の児童の出産に祝い金を支給します」に関して、第3子以降の児童すべてが対象になるわけではない制度だと思う。誤解を招いたり、不平等を感じる文面だと思います。公立保育所や公立こども園の建て替えに関して、多額の予算を使い必要規模以上の施設をいくつも設置することで子どもたちの将来の負担が増えないか心配している。消滅都市が囁かれる昨今で、箱物行政をやめないのはなぜか知りたい。地域子育て支援事業について、丸亀市のホームページで、「センター型」と「ひろば型」をあえて分けている理由を知りたい。どちらも数年前に同じ制度内で統合されたはずであり、利用者には関係なく困惑する要因ではないかと思う。
- 子ども家庭庁などが新規の事業に予算を付けた場合などは、市が積極的に手を挙げて、民間の団体に委託するなどの事業化を図ることで、全国の動きの最先端に行くことができる。手を挙げなければ、事業化が遅れる。
- 国・市からの遊び道具の貸し出し。そういったものがあると外へ出る意欲が高まる。
- この時期熱中症の危険もあるので、気を付けながら楽しく遊ばせる空間を作りたい。
- それぞれの自治体で病児保育が安定して運用されるのが望ましいと考える。
- コロナで保育園の行事が3年間激減し、集団生活が下手になっているような気がします。また、なわとび、おもちゃの片づけ、のりやはさみの使い方等も心もとない感じです。子どもの成長は家庭、保育園、学校、学童等すべて繋がっているのも、みんなが協力しなければ良くならないと思います。遠慮なく話ができる関係を作れるようご配慮ください。
- 保護者への支援に必要な事という質問はとても難しいです。保護者への支援が児童の為に役立っているのか疑問に感じる。
- 随分と来館者は垣根なく相談に訪れているが、もっとカウンセリングを受けたいと願う親たちは多いと思う。気軽に立ち寄って相談できることを認知する機会や場を提供できるよう工夫されたい。

「第3期丸亀市こども未来計画」のための 意見聴取 結果報告書

目 次

b & g まるがめ	10
丸亀市東小川児童センター	12

丸亀市

意見聴取 実施概要

日 時：令和6年7月30日（火）

場 所：b & g まるがめ 9：50～10：50 （7名参加）

丸亀市東小川児童センター 13：00～14：00 （5名参加）

意見聴取の目的：

アンケートでは聞き取れない内容を、対面で児童の声を聞く。

意見聴取の進め方：

- ①参加児童に集まって頂き、自由な意見が言える場を設定する。（時間をかけてゆっくりリード）
- ②話さなくてもいい雰囲気をつくる。（無理強いしない・パスあり）
- ③ファシリテーターがテーマを投げかけて進める。

テーマ例：「ご飯は何が好き？」「一つだけ夢をかなうとしたら何を願います？」等で

緊張をほぐしながら「児童の幸せ」に触れるテーマにつなげる。

「何をやっている時が楽しい？」「毎日楽しいですか？」

「お願いしたいことはありますか？」・・・等

課題に直結する様なダイレクトなテーマは出さない。（無理に誘導しない。）

b & g まるがめ

意見聴取概要

質問1「好きな色はなんですか？」

白→オレンジ→黒→水色→赤と緑→紫→ピンクベージュ

質問2「最近嬉しかったこと」

遊べた→新記録がでた→宿題が終わった→宿題がもうすぐ終わる→川に行った
→バレーの練習試合で最速サーブが打てた→大会で二位になった

質問3「新しいこと（初めてだったこと）」

戦艦のプラモ作成→パス→パス→野球でヒットを打った→b&gに母親の知り合いがきた

質問4「何してる時が楽しい？」

公園でブランコ→野球の練習→お話→プールで泳ぐとき→パス→TVを見てるとき
バレーの練習

質問5「友達と何をしてると楽しい？」

ゲーム→お出かけ→お泊り→お話→遊んで笑うとき→ボイレコ確認→何か作る時

質問6「好きな食べ物」

いちご→母親のオムライス→ドリア→グラタン→グラタン→エビグラタン

意見聴取概要

質問7「嫌いな食べ物」

ピーマンなす→貝類たこいか→バナナ→豆腐→パクチー貝類、いか、しそ

質問8「今、食べたいもの」

黒毛和牛→フルーツポンチ→グラタン→ハーゲンダッツ→焼き鳥、フルーツポンチ→特になし

質問9「今やりたいこと」

ジェットコースター→買い物→お泊り→寝る→ジェットコースター→スパイク練習
U S Jに行く→サッカー

質問10「なんでもできるとしたら、何をする？」

旅行→旅行→旅行→ディズニーランド貸切→フライングホムに乗ってハワイに行く→旅行

質問11「旅行はどこに行きたい？」

沖縄→ホテル→東京→シンガポール→北海道→韓国→韓国

質問12「なんで行きたいか」

推しがいるから→海、首里城を見たい→マライオンをみに→食べ物がすすき
涼みたい→遊びたいから→一人で寝たいから

意見聴取概要

質問13「友達に聞きたいことがある？」

誰が一番好きか→どこにいったのか？→旅行に行きたい場所→好きな食べ物
次いつ遊べる→誕生日→パス

質問14「この場のみんなに聞きたい事」

何が一番ほしい→誕生日→秘密のこと→今ほしいもの→何して遊ぶ→何歳

質問15「絶対かなうとしたら、お願いしたいこと」

頭がよくなる（テストで100点取りたい）
運動神経がよくなる（たのしくあそびたい）
足が速くなりたい（陸上をしたいから）
バレーがうまくなりたい（中学生で総体優勝しちから）
妹がほしい（いないから）
ボイレコ（大会で一位になりたい）
妹がほしい（お兄ちゃんしかいないから）

質問16「みんなの感想は？」

楽しかった→相手の事を知れて良かった→みんなの事を知れた→普段しない事ができてよかった

意見聴取概要

このヒアリング結果から、参加者が非常に活動的で、様々な経験に興味がある児童像が浮かび上がります。ジェットコースターやサッカー、旅行といったアクティビティを楽しむことが好きで、体を動かすことにも関心が高いようです。また、友達との関係や家族構成についても気になることが多く、社交性が高く、人間関係を大切にしている様子が見受けられます。

興味の対象が広範にわたっており、好奇心旺盛で新しいことへの挑戦を楽しむ人が多いと思います。学業やスポーツにおいても向上心が強く、具体的な目標を持って努力する姿勢が感じられます。これらから、児童たちは活動的で、多くのことに挑戦しながらも、人との繋がりを大切にする社会的な性格を持つことが伺えます。

このヒアリング結果だけでは参加者の幸福感を完全に判断することは難しいですが、彼らが多くの活動に興味を持ち、友達や家族との関係を大事にしている点から、彼らは比較的充実した日常を送っている可能性が高いです。アクティビティに対する情熱や、具体的な願望を持っていることは、彼らが前向きであり、自分の興味に基づいて活動していることを示しています。

また、友達や家族に関する質問が多いことから、彼らが人間関係を重視していることも幸福感に寄与している可能性があります。しかし、全体的な幸福感には個々の内面的な要素や他の生活状況も影響するため、これらの観察からすべてを断定することはできません。

さらに、このヒアリングを通じてお互いのことをより深く知る機会にもなり、親密さや理解が深まったとも考えられます。これは、参加者たちが「みんなの事を知れた」と感じたり、「普段知らない事が知れて良かった」と述べている点からもわかります。

丸亀市東小川児童センター

意見聴取概要

質問 1「好きな色はなんですか」

青→海が好き

水色→なんとなく

黄色

赤→わかりません

オレンジ→明るいから

質問 2「最近よかったこと」

ポケモンカード→夏休みの宿題が終わった→夏休み→夏休みの宿題が終わった

質問 3「最近あった新しいこと」

そうめんを担々麺にして食べた→パス→白ご飯に鮭

質問 4「何をしてるときが楽しい」

遊んでるとき→友達と遊ぶとき→鬼ごっこ→体を動かす→友達と遊んでるとき

質問 5「何がたのしい」

おもしろいから→おもしろい→好きな事をしてるから→パス→パス

意見聴取概要

質問 6「好きな食べ物」

エビマヨ→梅干し→ラーメン→チーズ→ラーメン

質問 7「きれいな食べ物」

きゅうり→サラダ→人参→大根→トマト

質問 8「仲間にきいてみたい事」

何して遊んでる？ カード→トランプ→ゲーム→恋バナ→カードゲーム

好きなお菓子は？ きこの山→なんでも→ポテチ→男梅

みんな何年生ですか？ 中 1→中 1→小 6→一番小さい子聞き取れず→中 1

好きなスポーツは？ 聞き取れず→バスケットボール→聞き取れず→野球

好きな動物は？ 犬→かわいいから

うさぎ→かわいいから

猫→かわいいから

ホワイトタイガー→カッコいいから

犬→おもしろいから

好きなアニメ？ サザエさん→日曜日の楽しみだから

ドラえもん→秘密道具が面白いから

クレヨンしんちゃん→面白いから

トムとジェリー→理由はわからない

意見聴取概要

質問 9「将来の夢は」

水泳選手→いろんなところで活躍したいから
服屋さん→おしゃれがすき
バトミントン→聞き取れず
たのしい仕事
美容師→美容系に興味があるから

質問 10「最近きになったこと」

恋愛ドラマのつづき→トムとジェリー→パス→恋愛ドラマのつづき→今日の晩御飯

質問 11「願いがかなえられるなら何をしてほしい」

戦争をやめてほしい→自分も戦争に巻き込まれるから
家族が健康でいられる→大切な存在だから
家族とずっと仲良く暮らしたい→家族が好きだから
戦争をやめてほしい→家とかがつぶれてかわいそうだから
もっと友達を増やしたい→話したことのない人がいっぱい居るから

意見聴取概要

質問 12「この町にどうなってほしい」

綺麗なまち→もっときれいになってほしいから
パス→サッカーゴールを大きくしてほしい→パス→綺麗なまち

質問 13「どんな大人になりたい」

だれとでも仲良くなれる人→困った時に助けて欲しい
みんなから尊敬される人→理由はない
聞き取れず→周りが明るくなるから
もてる人→うれしいから
活躍できる人→理由はない

感想

わかりません
みんなの回答がいろいろあって面白かった
みんなの回答をしれた
みんなの思ってる事がしれた
みんなの思ってる事がしれた

意見聴取概要

参加者の児童たちは、友達と遊ぶことを楽しみ、対人関係を大切にする社交的な性格を持ち、新しい食べ物の試みや様々な活動に興味を持つ好奇心旺盛さを持ち合わせています。また、家族の健康や幸福を願い、家族への愛情が深いことが伺えます。彼らはスポーツ、ファッション、料理など多様な分野に興味を持ち、幅広い教育的背景や経験を持つ可能性があり、将来について具体的な夢を持ち、それに向かって努力する意欲も感じられます。地域への関心が高く、清潔で美しい環境を望むと同時に、友達を増やしたい、戦争を止めたいといった社会的な問題にも意見を持ち、周囲の世界に対して責任感を持っている様子も見受けられます。これらの特徴から、児童たちは活動的で外向的な性格を持ち、多様な興味と社会への意識を持つ健全な成長を遂げている子どもたちと言えます。

参加者の児童たちは、友達と遊ぶことを楽しみ、家族や地域への愛情を持ち、多様な興味や将来の展望を持っていることから、総じて幸せであると考えられます。彼らは社交的で好奇心旺盛な性格を持ち、家族や地域との関係を大切にし、周囲の世界に対して責任感を持っている様子がうかがえます。これらの要素が揃っていることは、幸せな生活を送るための重要な要素だと思います。

